

九建日報

発行所

株式会社 九建日報社
〒812-0018 福岡市博多区住吉5-9-19
電話 代表 092(431)5361番
FAX 092(431)7613番
購読料 1ヵ月6,300円

北九州支局 TEL.093(921)5011
佐賀支局 TEL.0952(62)2450
長崎支局 TEL.095(827)5595
熊本支局 TEL.096(363)1553
大分支局 TEL.097(594)0518
宮崎支局 TEL.0985(24)6688
鹿児島支局 TEL.099(259)3426
<http://www.kyuukennippou.co.jp>

研究成果発表会を開催 日本建設技術グループ



【佐賀】日本建設技術(株)(唐津市北波多、原裕社長)グループは3日、平成22年度の研究成果発表会を唐津市の唐津シーサイドホテルで開催し写真し、ミラクルソルを用いた有明海の底質改善に関する研究成果などを報告した。

今年で7回目となる発表会には全社員と多くの来賓が出席。冒頭、原社長は「公共工事では提案型の入札が増加している。提案力の強化には技術力の更なる向上が不可欠で、発注者ニーズに応え、様々な課題を解決するにはグループ各

社が持つ技術を集約し、対応していくことが重要だ。選ばれたスマートな会社を目標し、今後挑戦していきたい」と挨拶した。成果発表では、地盤環境研究室の牛原祐司氏が「有明海干潟域におけるミラクルソルを用いた底質改善効果の実証」文部科学省からの委託研究の成果」と題して、底質改善材料の開発並びに改善効果の持続性調査における成果を発表。ミラクルソルを改善材として使用した場合、硫化物の生成抑制、台風などによる分級現象の緩和、酸化反応の促進などの効果が確認できたことを検証データを用いて説明した。

水環境研究室の飯田拓史氏は「水質浄化用ミラクルソルに関する経過・活動報告」として、ろ過材としてのミラクルソルの浄化能力などを説明。今後は海水魚用ろ過材として実用化を図り、新たな分野への販路拡大に取り組み考えを報告した。原社長は、平成21年度の活動報告と、軽量盛土工材としてミラクルソルをチューブ詰めユニット化した新しい軽量土工法「FWG&チューブ軽量土工法」について説明。同工法の実用化に向けた取り組みを報告したあと、「環境分野で貢献できる新技術・新工法の提案を今後も継続していく」と述べた。

発表の最後には、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之教授が講師。ミラクルソルがリンを回収する研究などに用いられるなど、高い評価を受け、広がりを見せている。業界は逆風の中にあるが、更なる発展を期待している」と話した。